

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科・経営戦略専攻
大項目	6 国際関係
中項目	
小項目	6.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	6.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性
	(KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. Have more exchanges with overseas MBA schools for Corporate Strategic Management Course. 企業経営戦略コースにおける海外のMBA校との交流の強化	→Co-develop the curriculum with affiliated schools and exchange one or two instructors who are in charge of this. 提携校とのカリキュラムの共同開発及びそれを担当する教員の相互派遣(1-2名程度)	B	C			
2. To increase awareness and global exposure of IMC program. (IMCの世界的な認知度の向上。)	→Advertisement of IMC program in suitable media and/or participation in international higher education fair. (適切なメディアでのIMCのPR、または国際高等教育フェアへの参加など。)	B	B			
3. To strengthen networking between IMC faculty and foreign scholars. (IMC教員と海外の研究者とのネットワーク強化。)	→MOU with universities abroad, inbound of foreign scholars, exchange students and dissemination of faculty research in international journals and conferences. (海外の大学との提携、海外研究者の招致、交換留学生の呼び込み、国際的な雑誌や学会での教員による研究発表。)	B	A			
4. Establish hybrid courses in which the working students can complete MBA program both in English and Japanese. 社会人が英語と日本語でMBA課程を修了できるハイブリッドコースの設置	→Establishing the hybrid courses. ハイブリッドコースの設置状況	C	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.0.1	6.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) <input checked="" type="checkbox"/> いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="checkbox"/> 明示している <input checked="" type="checkbox"/> 明示していない (方針)
	(説明) 交流活動は積極的に行っているが、国際交流についての方針は明示されていない。 IMC successfully participated in 'Global business project' in Washington D.C. where MBA students from twenty business schools attended the meeting in March, 2011. We concluded the exchange programs with the University Of Brawijaya in Indonesia, and Management and Science University in Malaysia. IMC will introduce our first hybrid course available to both working students and IMC students. 国際経営コースでは、ワシントンD. C. にて開催の「グローバル・ビジネス・プロジェクト」に参加している。このMBAプログラムでは、2011年3月開催の会合に12カ国から参加があった。また、インドネシア Brawijaya大学、マレーシアMSUとの研究科間協定締結を決定した。さらに、国際経営コース学生と企業経営戦略コースの社会人学生とが履修できるハイブリッドコースを導入した。(意見交換後、6.0.2に移動)
★ 小項目6.0.2	6.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 (説明) IMC successfully participated in 'Global business project' in Washington D.C. where MBA students from twenty business schools attended the meeting in March, 2011. We concluded the exchange programs with the University Of Brawijaya in Indonesia, and Management and Science University in Malaysia. IMC will introduce our first hybrid course available to both working students and IMC students. 国際経営コースでは、ワシントンD. C. にて開催の「グローバル・ビジネス・プロジェクト」に参加している。このMBAプログラムでは、2011年3月開催の会合に12カ国から参加があった。また、インドネシア Brawijaya大学、マレーシアMSUとの研究科間協定締結を決定した。さらに、国際経営コース学生と企業経営戦略コースの社会人学生とが履修できるハイブリッドコースを導入した。(下線部、意見交換後6.0.1から移動) アジア諸国のビジネススクールと積極的に交流提携を行っている。 It is practically hard to co-develop the curriculum with affiliated schools because of differences in various aspects of academics. The specialized study programs provided by each school vary across schools, and hence each school put different weight on different courses. Consequently, it would be of best interest to individual schools to set up the own curriculum and then discuss the possible conversion or consistency afterwards. 提携校とのカリキュラムの共同開発については、各大学により学問分野がさまざまに異なるために、実質的には難しい。専門科目は各大学で設定されるため、大学ごとに異なる上、各コースにかかる比重も異なる。結果として、個々の大学が独自のカリキュラムを設定した後、調整し、変更を加えたり整合性を検討することになる。
その他	

《評価指標データ》

- ★ 提携校とのカリキュラムの共同開発及びそれを担当する教員の相互派遣
- ★
- ★ ハイブリッドコースの設置状況

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.0.1	
★ 小項目6.0.2	
その他	社会人学生と英語のみで授業を行う国際経営コースの学生が共同で履修する新設のハイブリッド科目であるSpecial Topics in Financeの学生評価が高い。

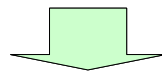
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.0.1	
★ 小項目6.0.2	
その他	引き続き、来年度は、ハイブリッド科目のSpecial Topics in Marketingを新設する。

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.0.1	国際交流のビジョンや方針を早急に立案する必要がある。
★小項目6.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.0.1	執行部や専攻会議での議論を活発に行う。
★小項目6.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

- 目標1の進捗状況を2009年度Bから2010年度Cとしていますが、進捗状況の意味から不自然であり、現状説明のなかで説明することが望まれます。
- 目標3の進捗評価が「A」に上がったことについて、“効果が上がっている事項”で説明してください。
- 方針が早急に策定、明示され、その方針に沿って一層積極的な国際交流が実施されることが望まれます。
- 積極的な国際教育活動が行われていることが伺えます。
- 6.0.1の現状説明は、6.0.2もしくはその他での記述が適切かと思えます。
- 目標の1の進捗評価が「B」から「C」になっています。説明を求めます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- 目標1の進捗状況をBからCとしたが、これは提携校の数の拡大にもかかわらず、カリキュラムの共同開発や教員の相互派遣が全く進展していないことによる。今後は、本学の短期・長期のサバティカル・リープを適切に活用するようにして、この面を進展させたい。IMCと外国の大学との交流促進の努力が実り、4名(ドイツから3名、デンマークから1名)の学生を受け入れ、また、IMC学生1名をフランスへ送り出した。海外研究者の受け入れはアメリカのエモリー大学から1名であった。
- ★IMCには5名教員がいるが、3つの論文が国際学術誌に掲載された。また、ヨーロッパ・北米・アジアで開催された各専門分野の主要学会での論文発表数は次のとおり。カナダ1名、アメリカ1名、ヨーロッパ1名、シンガポール1名、インドネシア1名、韓国1名。概して、IMC・外国大学間の教員学生交流の強化努力は、IMCと外国大学間の学術提携増という形で実を結んだ。6.0.1は6.0.2に移動した。